

# 季節の花を用いた大型空間ディスプレイの制作

大阪府立園芸高等学校 フラワーファクトリ科  
第3学年 草花A班12名

## 1、目的

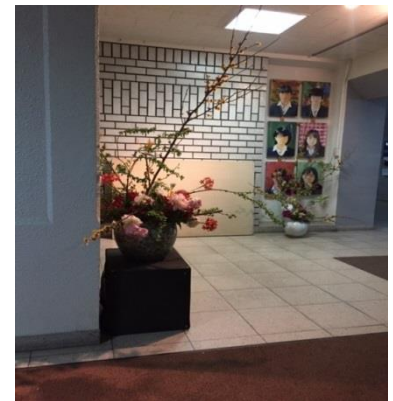
近年花業界で求められる人材はフラワー装飾に関する技術を幅広く持っていることであり、従来の西洋から伝わったフラワーアレンジメントの知識や技術だけでなく、日本古来から継承されてきた華道の技術を持っていることが有効である。本研究では、長年花業界に携わってきた専門家の方から講義および指導を受け、実際に制作することを通して広い空間を飾る大型ディスプレイの制作技術を身につけることを目的としており、平成28年秋より継続している研究である。

## 2、実施計画

平成28年秋・平成29年秋	剣山方式あるいは投げ入れ方式の実習	個人で制作
平成30年12月 5日	投げ入れ方式の実習（大作）	2～3名1組で制作
平成30年11月2日・5日	投げ入れ方式の実習	個人で制作
平成31年 1月24日	投げ入れ方式の実習（大作）	2名1組で制作

## 3、実施

平成31年1月24日 投げ入れ方式の実習（大作）



（使用した花材）

枝物：マンサク・ベニツゲ

花物：ストレリチア・コデマリ・アルストロメリア（2品種）・ダリア（4品種）・エピデンドラム（2品種）

## 4、考察

1年生の頃は、剣山などといった道具を使用するのも、枝物などを思ったような角度に留めることも難しく感じていた。しかし、3年間の実習を通して華道のコツを覚え、枝物の裁き方や自分が思うように枝を留めることが少しはできるようになり、技術向上をした様に思う。また実習を通して華道の魅力に気付くこともできた。華道の魅力は花だけでなく空間も作品のうちで、空間をうまく見せることができること、また少ない花材であっても大きく作り人を驚かせることができることだと思う。今後は、この技術を生かして、個人制作にとどまらず、たくさんの人数でイベント会場のような広い場所を装飾してみたい。

今回の大作の実習では、自分達の力を全て発揮しきれたとは言えないので、2月28日の卒業式の会場装飾を自分たちで仕上げ、最後の集大成としたい。